

# 温泉の成分、禁忌症、適応症及び入浴上の注意

## ●成分

- 源泉・温泉名 湯の山温泉 宏説湯  
源泉所在地 三重県三重郡菟野町大字菟野字湯の山8541番の22
- 泉質 単純弱放射能温泉(低張性弱アルカリ性低温泉)  
本鉱水は泉温25℃以上及びラドン(Rn)8.25マッヘ単位以上を有し、単純弱放射能温泉となり温泉法に該当する。
- 泉温 源泉 25.2℃(気温32.6℃) 利用場所 42℃
- 温泉の成分
  - (1) pH値 7.8
  - (2) ラドン(Rn)含有量 37.1×10<sup>-10</sup>Cl(キリ)/kg(10.2M・E(マッヘ)/kg)
  - (3) 試料1kg中の成分、分量及び組成

### ア)陽イオン

成分	ミリグラム(mg)	ミリバル(m val)	ミリバル%(m val %)
ナトリウムイオン (Na <sup>+</sup> )	37.90	1.65	89.19
カリウムイオン (K <sup>+</sup> )	1.00	0.03	1.62
マグネシウムイオン (Mg <sup>2+</sup> )	0.10	0.01	0.54
カルシウムイオン (Ca <sup>2+</sup> )	3.30	0.16	8.65
陽イオン計	42.30	1.85	100.00

### イ)陰イオン

成分	ミリグラム(mg)	ミリバル(m val)	ミリバル%(m val %)
フッ化物イオン (F <sup>-</sup> )	8.40	0.44	24.52
塩化物イオン (Cl <sup>-</sup> )	8.40	0.24	13.37
硫酸イオン (SO <sub>4</sub> <sup>2-</sup> )	5.50	0.11	6.13
硝酸イオン (NO <sub>3</sub> <sup>-</sup> )	0.80	0.01	0.56
炭酸水素イオン (HCO <sub>3</sub> <sup>-</sup> )	59.80	0.98	54.58
炭酸イオン (CO <sub>3</sub> <sup>2-</sup> )	0.50	0.02	0.84
陰イオン計	83.40	1.80	100.00

### ウ)遊離成分

#### 非解離成分

成分	ミリグラム(mg)	ミリモル(m mol)
メタケイ酸 (H <sub>2</sub> SiO <sub>3</sub> )	27.60	0.35
メタホウ酸 (HBO <sub>2</sub> )	2.20	0.05
非解離成分計	29.80	0.40

溶存物質(ガス性のものを除く): 0.16g/kg

#### 溶存ガス成分

成分	ミリグラム(mg)	ミリモル(m mol)
遊離二酸化炭素 (CO <sub>2</sub> )	1.00	0.02
溶存ガス成分計	1.00	0.02

成分総計: 0.16g/kg

### エ)その他微量成分(mg/kg)

リチウム	0.046	ストロンチウム	0.035
鉄	0.003	銅	検出せず
アルミニウム	0.007	バリウム	0.004
総ヒ素	検出せず	鉛	検出せず
総水銀	検出せず	カドミウム	検出せず

- 温泉の成分の分析終了年月日 平成16年9月6日
- 登録分析機関の名称及び登録番号  
三重県科学技術振興センター保健環境研究部 三重県知事登録第1号

## ●禁忌症、適応症及び入浴上の注意

- 浴用の禁忌症  
急性疾患(特に熱のある場合)、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中(特に初期と末期)
- 浴用の適応症  
痛風、動脈硬化症、高血圧症、慢性胆嚢炎、胆石症、慢性皮膚病、慢性婦人病、神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき慢性消化器病、痔疾、冷え症、病後回復期、疲労回復、健康増進
- 入浴の方法及び一般的注意事項
  - (1) 温泉療養をはじめる場合は、最初の数日の入浴回数を1日あたり1回程度とすること。その後は1日あたり2回ないし3回程度までとすること。
  - (2) 温泉療養のための必要期間は、おおむね2ないし3週間を相当とすること。
  - (3) 温泉療養開始後おおむね3日ないし1週間前後に湯あたり(湯さわりの湯湯反応)が現れることがある。「湯あたり」の間は、入浴回数を減じ又は入浴を中止し、湯あたり症状の回復を待つこと。
  - (4) 以上のほか、入浴には次の諸点について注意すること。
    - ア) 入浴時間は、入浴温度により異なるが、始めは3分ないし10分程度とし、慣れるにしたがって延長してもよい。
    - イ) 入浴中は、運動浴の場合は別として一般には安静を守る。
    - ウ) 入浴後は、身体に付着した温泉の成分を水で洗い流さない。(湯ただれを起こしやすい人は逆に浴後真水で身体を洗うか、温泉成分を拭き取るのがよい。)
    - エ) 入浴後は、湯冷めに注意して一定時間の安静を守る。
    - オ) 次の疾患については、原則として高温浴(42℃以上)を禁忌とする。
      - イ 高度の動脈硬化症
      - ロ 高血圧症
      - ハ 心臓病
    - カ) 熱い温泉に急に入るとめまい等を起こすことがあるので十分注意する。
    - キ) 食事の直前・直後の入浴は避けることが望ましい。
    - ク) 飲酒しての入浴は特に注意する。

- 禁忌症、適応症決定年月日  
平成16年9月9日 三重県

## ●成分に影響を与える項目

- 加水している理由  
緊急時の対応のため加水しています。  
源泉100%の場合、成分により皮膚へ与える影響があるため加水しています。
- 加温している理由  
お客様に快適な湯温でお入りいただくため加温しています。
- 循環利用している理由  
温泉資源の保護と有効活用並びに衛生管理のため、循環ろ過装置を使用しています。
- 消毒処理している理由及び消毒方法  
所轄行政よりレジオネラ菌等の細胞対策指導と衛生管理のため、塩素系薬剤を使用しています。